

「この人 16」

大杉 文夫 72 歳 東京都

第二回滑稽俳句大賞 次点

「河豚食って四十二歳素通りす」

七十二歳の誕生日に息子が河豚料理の店に連れてってくれたんです。
ひょっとすると・・・という気持ちが頭を掠めました。
中毒にもならずの安堵感が句になりました。
七十二歳では洒落にもならないから厄年の四十二歳としたわけですが、
「つきすぎ」という批評もあります。

今回の滑稽俳句大賞応募は句会の先輩(女性)の勧めで、
句もその先輩が選んでくれました。
先輩も応募しましたが・・・先輩は入選してません・・・ハイ

俳句は十一年前に江戸川区の俳句講座に参加したのがはじまりで
現在では複数の句会に顔を出しています。

私の句は「川柳と俳句の中間だ」と批評されます。
単なる写生じゃつまらんから 「心情が入ってくすと笑える」
句を狙っています。
この頃は俳句に「はまって」いるので「女性より俳句が好き」
とすることにしています。

それでは代表句を・・・

- ・ 草餅や好きも嫌ひも女偏
- ・ 衣被女将つるりと過去もらす
- ・ 大黒の気分で担ぐ福袋
- ・ 晩酌にすりよつて来る秋の蠅
- ・ 六月の花嫁いつかどつこいしよ